



平成22年度 大学認証評価を終えて

香川県立保健医療大学は、平成16年4月の開学以来、地域に根差した魅力ある大学づくりを目指して様々な改善・改革に取り組み、「豊かな人間性と幅広い教養とともに高度な専門的知識及び技術を有した保健医療従事者を養成し、県民の健康増進と地域の保健医療の向上に寄与する」という、本学の目的及び社会的使命の遂行に努めてまいりました。

このようななか、昨年度は開学から7年が経過するのを受け、2回目の自己点検・評価を実施するとともに、第三者評価機関である財団法人大学基準協会に自己点検・評価報告書を提出し、学校教育法で義務付けられている大学認証評価を受審いたしました。その結果、大学基準協会より平成23年4月1日付けで、「貴大学は本協会の大学基準に適合している」との評価をいただき、協会の正会員としての加盟・登録が承認されました。また、同時に本学の更なる改善・改革に向けたいくつかの貴重な提言もいただきました。今回の自己点検・評価報告書と認証評価結果については、学内外からも広くご意見を頂戴すべく大学のホームページに公表されていますが、今後は、今回の評価結果を踏まえ、大学の改善・改革をこれまで以上に積極的に押し進め、地域に愛される魅力ある大学づくりに努めてまいりたいと考えているところです。

ご承知のように、少子高齢化の一層の進展など社会構造の変化を受け、大学を取り巻く環境は近年厳しさを増すばかりです。また、疾病構造の変化や科学技術の進歩等を受け、保健医療を取り巻く環境も大きく変化しており、本学のような保健医療系の大学はこれらの変化をいち早く受け止め、時代の要請に応じた医療技術者を育成していかねばなりません。皆様方の忌憚のないご意見やご批判、ご教示を仰ぎながら、今後の改革に邁進する所存でございますので、今後とも本学へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大学行事

オープンキャンパス



7月23日(土)の午後オープンキャンパスが開催され、県内外より多数のご参加をいただき、ありがとうございました。今年も看護学科、臨床検査学科ともにスタンプラリーで学内見学を実施しました。参加者の皆さまにアンケートでお伺いしたところ、全員の方に満足したとのお答えをいただき嬉しく思っています。また、いろいろな体験ができ興味が深まった、この大学に合格して学びたいという思いが強くなった、在学生と話す機会が多く生の声が聞けてよかった、大学の雰囲気よかった、先生や在学生の親切で丁寧な指導がよかった、先輩たちがいきいきとして楽しそうだった、等のお声を寄せていただきました。また、イケメンぞろいでしたというご感想も…♡♡

10月22日(土)に行われる橄欖祭(大学祭)においても、在学生や教員によるミニオープンキャンパスを行いますので、本学に興味のある方はぜひお越しください。



一人でも
多くの方々が
本学を受験される
ことを期待
しています。

公開講座

8月23日(火)に公開講座「健やかに生きよう」が高松市生涯学習センターで開催されました。今年度第1回は「増え続ける子ども虐待～今、それぞれができること～」講師:中添和代准教授、「寿命をのばす」講師:古山達雄教授の2講座を開講し、59名の方が受講され、好評のうちに終了しました。

第2回公開講座を11月11日(金)に本学において開催しますので、興味のある方はぜひご参加ください。詳しい内容は、大学ホームページや県広報誌などでご案内します。



FD 活動報告

FD 委員長 新見 道夫

FD とはファカルティ・ディベロップメントの略で、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるために行う、大学の組織的な取り組みを言います。本学では平成16年よりFD委員会を設置し、全学的なFD活動を展開しています。これまで検討を重ね、組織的な取り組みを行ってきたものは、(1)学生による授業評価アンケートの実施と、評価結果に対する教員の自己点検を学生へ開示、(2)講演会やティータイム教育サークルの実施です。今年度は、香川大学大学開発センターの葛城浩一先生を講師にお迎えし、FD講演会「大人数講義の基本」を行いました。参加者は大規模クラスの授業方法について様々なヒントを得たのではないかと思います。これを活かすため次回の教育サークルでは、「大規模クラスの授業展開の工夫」というテーマで、教員間でディスカッションの予定です。今後とも、授業改善のためFD活動を推進していきたいと考えております。



研究紹介

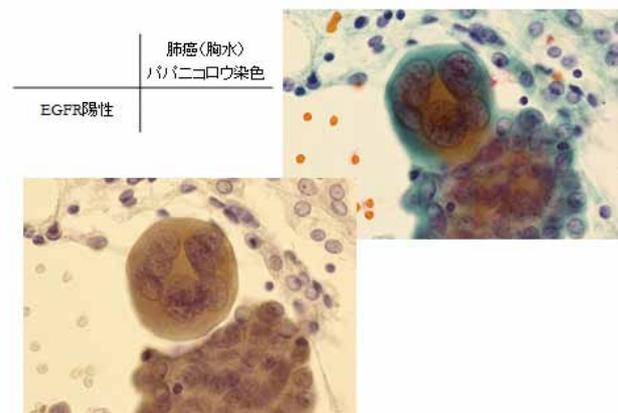
がんの診断と治療のために

臨床検査学科
教授 平川 栄一郎

病理学とは、主として形態学的な研究手法を用いて、病気の成り立ちや治療効果、予後等について解明していく学問領域ですが、私たちは、中でも EGFR（上皮成長因子受容体）や細胞間接着装置を形成する claudin（クローディン）に注目して、がんについての研究を行っています。

がんは遺伝子が異常をきたし、その遺伝子によってつくられた異常なタンパク質によって細胞が無秩序に増殖する疾患です。EGFR や claudin に遺伝子増幅や遺伝子変異、構造変化が起きると発癌や癌の増殖、浸潤、転移などに関与してきます。臨床的には EGFR の発現が分子標的薬の適応となります。そこで研究室では細胞診や癌の手術材料を用いて、EGFR や claudin の遺伝子やタンパク質の発現と臨床病理学的な関係について調べています。図は体腔液に出現した肺癌の細胞で、免疫細胞化学的に EGFR を染色したのですが、癌細胞に茶色の陽性所見がみられます。このように体腔液の細胞診では癌細胞に EGFR の陽性率が高く出現し、反応性中皮細胞との鑑別に有用であることが明らかとなりました。また、高分化な腺癌に EGFR 陽性細胞が多くみられるという傾向がありました。

平成 21 年の人口動態統計の概況によると、日本人の死因の第 1 位はがんで、30.1%を占めています。このままの増加率でいくと 2020 年には国民の 2 人にひとりのがんで死亡するという予測がなされています。この増え続けるがんに対し、正確な診断と最善の治療効果をあげるためにも、これらの研究結果をいかしていくことができればと思っています。



著書紹介

本学教員の著書を紹介します。 看護学科 教授 松村 恵子

大学院での研究に幾つかの「おまけ」を汲み入れて、修士論文は「母性意識の構造と発達」としました。博士論文は「母性意識を考える」で、この朝陽のような夕陽のような表紙が気に入っています。

「母性意識の構造と発達」 松村恵子著

「母性」ということばのはじまりや移りかわり、女性の概念と母性の概念を曖昧にしないで分けてとらえてみる、また、性差、性役割、性別役割、性別分業ということばがもつ意味や、「母性」ということばがもつイデオロギー性について、現象学の視点から「意識」や「構造」の概念を整理した。そして、身近なところから考えることができるように実証的研究で構成し、女性の生涯発達という視点から「母性」をとらえようとする試みを述べた。



ISBN4-88003-553-6
A5判 206頁 定価(3,300円+税)
2000年10月第1版第2刷発行
真興交易医学出版部

「母性意識を考える」 松村恵子著

「母性意識」、それは母親だけに備わる意識だろうか？子育てが、女性・母親としての役割、男性・父親としての役割である、に縛られることなく、人間の在り方として「幼く小さく弱いいのちを慈しむ心」を育てるためには、どのようなことが必要なのだろうか。それを一緒に考えていきたい。「いのち」を慈しむ人間の心について考えるところからはじめ、「母性意識」に関する実証的研究を中心に、三歳児神話、育てあい響きあう親子などについて論じた。



ISBN4-8355-8827-4
A5判 200頁 定価(1600円+税)
2005年8月初版第1刷発行
文芸社

震災支援

本学では、東日本大震災発生直後から、被災者に対して教職員、学生として可能な支援をしてきました。

医療に関する支援として、本学教員の「日本看護協会災害支援ナースへの登録」を行いました。現在、8名の教員が登録を済ませており、被災地入りの体制を整えています。

募金活動として、事務局に募金箱を設置し、教職員、学生に呼びかけて募金活動を実施して、3月23日と4月8日に合計で211,480円を募金しました。また、県が受け入れを開始した災害救援物資の提供を教職員に呼びかけ、3月30日には、バスタオル20枚と紙おむつ（大人用193個、子供用365個）を救援物資として届けました。

被災学生への支援として、「他大学に在籍する被災された世帯の学生に対する修学支援」制度を新たに設けるなどの準備をしました（適用学生なし）。

今後については、震災の爪痕が十分に修復されていないことから、少し長い目で震災支援を考えてまいります。

車椅子寄贈

看護学科 3年 藤田 晴香

去る2010年10月16日、『繋～つながる～』というテーマのもと第11回橄欖祭を開催させていただき、多くの皆様のご参加、ご協力により大成功を収めることができました。ありがとうございました。第11回橄欖祭実行委員会では、学習や課外活動で得たものを地域社会へ還元し少しでも地域活性に役立てばと考え、今回模範店の売り上げの一部で車いすを2台購入し、3月28日、中央病院に寄贈させていただきました。お忙しい中、松本院長、池田看護部長、村上事務局長が対応してくださり、感謝状を頂きました。実際に医療の現場で地域の皆様に活用され、車いすが懸け橋となり医療従事者を目指す私達と地域が密接に繋がったようでとても嬉しく思っています。これを機に今後も地域に貢献できるような活動に積極的に参加していきたいです。



3大学学生のつどい

看護学科 2年 角元 恵 / 臨床検査学科 2年 鍋坂 彩華

5月28日(土)香川大学医学部にて3大学交流会が開催されました。医療系学部を有する県内大学(徳島文理大学・香川大学・香川県立保健医療大学)の学生が集まり、学生同士の友好関係を広める良い機会になったと思います。活動内容としては香川大学の黒田泰弘先生による講演、球技大会、立食パーティーでした。黒田先生の講演は今年3月に起こった東日本大震災に関連し「災害時における救急」という内容で、将来医療従事者を目指す者たち皆熱心に耳を傾けていました。また球技大会はバレーボールを実施しました。交流を図るため3大学をシャッフルしてのチームを作り、各グループ景品GETを目指して楽しそうにplayしている様子でした。最後の立食パーティーでは、仲良くなった人同士または新たな交流を深めたりと皆楽しく食事している様子が見受けられました。今回のこの交流を通して、職種は違えど同じ医療従事者を目指す者同士で交流を深めることは、お互いに刺激し合える良い機会であると実感できました。これから益々このような機会が増えれば良いと思います。



サークル紹介

ダンスサークル

看護学科 2年 角元 恵

「THE☆ダンスサークル」は今年で創設4年目に突入り、最初はほんの人数であった部員も現在では30数名と賑やかなサークルになりました。全員練習は週1回ですが、皆ダンスが大好きなので踊りたいと思う時は積極的にダンスに励んでいます。学年問わず皆が本当に仲良しで、学外のダンス仲間と共に練習したり、ワークショップなどにも参加したりといつも元気に楽しく活動しています。活動の場もどんどん広がり、学祭や新入生歓迎会、クリスマス会と校内だけに留まらず、地域のお祭りやショッピングセンター、老人ホームなどの施設でもダンス披露させて頂けるようになりました。これからもサークルを通して地域の方々との交流を深めていきたいと思っています。



今後の行事予定

- ◇橄欖祭(大学祭) 10月22日(土) 10:00~17:00
テーマ「医心伝心」
- ◇公開講座 11月11日(金) 13:30~16:00
メインテーマ「健やかに生きよう」
- ◇いきいき健康広場 2月3日(金) 13:00~16:00

- 【入学試験】
- 推薦入試(看護学科・臨床検査学科) 11月19日(土)
 - 一般前期入試(看護学科・臨床検査学科) 2月25日(土)
 - 一般後期入試(看護学科) 3月12日(月)

前号(Vol.6)からタイトルが新しくなり、広報誌がリニューアルされています。

タイトルのHANDsは“高い専門的医療技術により、尊い生命を支える人間愛に溢れた温かい手”を意味しています。



KAGAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1
Tel:087-870-1212 Fax:087-870-1202
E-mail: hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp
ホームページ: <http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/>

